

OAPEC(アラブ石油輸出国機構)との 技術コンファレンス開催(バーレーン)

JCCPは、平成27年2月3日(火)より5日(木)まで、バーレーンのシェラトン・ホテルにおいて、バーレーン王国エネルギー省アブドル フセイン ビン アリ・ミルザ大臣(H.E. Dr. Abdul Hussain bin Ali Mirza, Minister of Energy)および在バーレーン日本国大使館 浅子清大使等のご列席の下、アラブ石油輸出国機構(OAPEC)および国家石油・ガス庁(NOGA)と技術コンファレンスを共同開催致しました。テーマは、「石油精製産業における省エネルギー」(Options for Energy Conservation in the Oil Refining Industries)で、約110名の参加を得ました。

開会式には、上記のお二人の他、OAPEC アッバス アル・ナキ事務局長(H.E. Mr. Abbas A. Naqi, Secretary General of OAPEC)およびJCCP 平岡英治参与の4氏が挨拶を行いました。挨拶の趣旨としては、世界の石油価格の下落環境の中、今回のテーマ「省エネルギー」が時期に相応しく意義深い重要テーマである旨や、コンファレンス開催に至る関係各国・団体の努力と協力への感謝の意が、それぞれの立場から述べられました。

平岡参与は、特に、JCCP活動の紹介、OAPECとの関係等を中心に述べ、今回の共同コンファレンスが第3回目に当たることを紹介しました。



OAPEC 開会式
(右から2番目:アリ・ミルザ エネルギー相、
右から3番目:浅子大使、右端:アル・ナキ OAPEC 事務局長、
左端:JCCP 平岡参与)

1. OAPEC との協力事業の経緯と目的

OAPECとの関係は、2009年5月に、OAPEC事務局からJCCPに対して協力の可能性を打診されたのがきっかけで、両者で協議を重ねた結果、2010年チュニジアで、大畠経済産業大臣とアムル ムーサ アラブ連盟事務総長(H.E. Mr.

Amre Moussa, Secretary General, the League of Arab States) 立会いの下、OAPECとJCCPとの間で協力関係の意向を確認する文書(LOI)が締結されたことから始まりました。これにより、JCCPは、日本で蓄積された石油のダウンストリームに関する知識・経験を活用した技術交流、専門家による人的交流を通じて、多国籍機関であるOAPECとの協力関係及びメンバー産油国との友好関係の増進を図っています。

(OAPECメンバー国:クウェート、サウジアラビア、リビア、UAE、バーレーン、カタール、アルジェリア、イラク、シリア、エジプトの10か国)

2. テクニカル・セッション

3日および4日のテクニカル・セッションでは、19件の講演が4セッションに分かれ、日本から5人の講師が講演しました。各講演後、参加者との活発な質疑応答が交わされ、参加者から高い関心が寄せられました。

日本人講師(出張委嘱者)および講演タイトルは、以下のとおり(順不同・敬称略)。

- 1) Ph. D. 松田 一夫(千代田化工建設、セッション・チェアマン兼任):
ピンチ技術による省エネルギー
Energy saving by Pinch technology -From single site to multiple sites

- 2) 八木田 寛之(三菱日立パワーシステムズ エンジニアリング=MHPS、セッション・チェアマン兼任):
石油精製産業におけるMHPS社技術のエネルギー効率
Energy Efficiency for Petroleum Industries by MHPS Technologies
- 3) 本田 武司(日揮):
プロセス最適化による省エネ
Energy Saving by Process Optimization
- 4) 榎原 正明(コスモ総合研究所):
DHDS装置の運転改善
Operational Improvement of Diesel Hydro-Desulfurization (DHDS) Unit
- 5) 大澤 一久(東亜石油):
製油所エネルギー管理および蒸気圧縮機の省エネ
Refinery energy management and energy saving by steam compressor

3. その他

5日には、バーレーン石油会社(The Bahrain Petroleum Company=BAPCO)の石油精製施設を視察しました。
(技術協力部 永沼宏直)



日本人講師:左から、本田氏、榎原氏、松田氏、八木田氏、大澤氏



会場風景